別紙

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立鷺浦小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		56	58.5	47	54.4	53.9
	本年度結果 偏差値平均	52	59	53.7	48	48.5	52.2
算数	前年度結果 偏差値平均		64	61.5	50	57.6	58.2
	本年度結果 偏差値平均	58	60	54	52.5	55.5	56
理科	前年度結果 偏差値平均				43.5	55.6	49.5
	本年度結果 偏差値平均			52.7	56.5	54.3	54.5
全体	前年度結果 偏差値平均		60	60	46.8	55.9	55.6
	本年度結果 偏差値平均	55	59.5	53.5	52.3	52.8	54.6

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数	理科
前年度結果 （対県比）	86	88	
本年度結果 （対県比）	79 （67）	72 （64）	71 （66）

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） 【国語】 ●大事なことを聞き取ることに課題が見られた。（2・3年） ●感想を伝え合ったり話し合ったりすることに課題が見られた。（4・5年） ●目的に応じて書くことや，構成を考えて書くことに課題が見られた。（6年） 【算数】 ●長さ・重さの単位の変換と角の測定に課題が見られた。（4・5年） 【理科】 ●「乾電池と豆電球」(4年)と「振り子のきまり」(6年)に課題が見られた。	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） ●国語「文章のよいところを見つけて書く」理科「結果の分析」が無回答率がそれぞれ25％で，自分の考えを書くことが難しい児童がいる。 ●算数「目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する」（50％）「グラフから必要な情報を読みとる」（50％）⇒基本的なデータの読み取りはできるが，複数のデータの中から必要に応じたデータを選んで読み取るなど，活用することが難しい。 ●理科「メスシリンダーの正しい使い方を身に付けている」（50％）「実験の過程や得られた結果を適切に記録している」（75．0％）⇒メスシリンダーの器具について理解はしているが使い方が理解できていなかった。情報を整理した記録の仕方が身についていない。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○自分の考えをもち，発表する場を設定する。 ○感想を伝え合ったり，話し合ったりする場を設定する。 ○相手や目的に応じて，具体的に書く場面を設定して学習活動を行う。 ○理科・算数においては，生活と関わりをもたせたり，発達段階に応じた操作的活動を取り入れたりすることを通して，基礎的な概念の理解を図る。	①ワークシートやクロムブックなどを使って自分の考えをもち，交流する時間をとる。また，相手の考えのよいところを認める声掛けや意見を出し合うよさを学級全体に伝えていく。 ②話題を精選して提示し，自分の感想や意見をもたせ，それらを伝えたり話し合ったりする活動を授業や全校の場で設定する。 ③書く単元では，導入時に5W1Hを共有したり段落構成を視覚化して示したりするなどの工夫を行った上で授業を進めていく。 ④理科・算数においては，教具等を目的に応じて正しく使ったり，図などを活用して数量等のイメージをもったりすることができるようにしたりする。また，ミライシード等を活用しながら個の苦手な箇所を速やかに把握し，手立てを講じる。補習タイムに個別指導を行う。	①1週間に1回以上 （月1回実践交流） ②1週間に1回以上 ③書く単元 ④年間 家庭学習 放課後の補習タイム	・Q-U2回目の学習意欲数値向上(全国平均以上) ・算数，理科の学期末たしかめテストで知識・技能のクラス平均正答率90％以上
【学級・学習集団づくり】 ○学校生活意欲が向上するよう，児童が主体的に取り組む行事等を計画し，実施する。 ○児童の自己有用感や自己肯定感を高める取組を行う。 ○児童の情報共有を密に行い，学校体制で指導を行う。 ○児童が安心して過ごすことができるようルールを守る取組を行う。	①児童が企画した全校遊びなどを行い，良かった点や課題点について振り返りを行うことで，所属感や達成感を感じることができるようにする。 ②「鷺浦小すてきいっぱいプロジェクト」として児童が日常生活の中で見つけたお互いの良いところや感謝の気持ちをカードに書いて掲示を行うことで視覚的に自己有用感や自己肯定感を感じることができるようにする。 ③暮会などで学級の様子などを共有したり必要に応じてケース会議を開いたりし，課題のある児童に対して組織的に取り組む。 ④全校朝会でルールについて話をしたり，児童総会で自分たちの生活の様子について話し合ったりすることを通して，ルールを守る意義や良さを実感させるようにする。また，学習や生活のルールを効果的に掲示することで，意識化を図る。	①学期に1回以上 ②年間 ③年間 ④年間（月1回以上実施）	・Q-U2回目の学校生活意欲の数値向上